

【不動産登記法】

分野別内訳	総論：9問、各論：7問
出題形式	組合せ問題 13問 登記記録問題 1問 個数問題 1問 問題文冒頭に「判例の趣旨に照らし」が付く問題 0問 推論・学説問題 0問 正誤問題 2問 空欄を補充する問題 0問

【本年度の特徴】

- ① 昨年と比較して、総論が3問も増え、総則分野中心の出題であった。
- ② 例年どおり典型論点からの出題が中心であったが、長文化している。
- ③ かつて出題されたことのない「罰則」等、失点を狙う問題があった。
- ④ 過去問丸々の肢というよりは、既出の論点+ α の範囲、周辺論点を問う問題が非常に多かった。
- ⑤ 組合せ問題が中心だが、登記記録を読ませる問題が久々に出題されるなど、全体的にボリュームがあり、書式の時間を考慮すると、昨年に比べると量・質ともに解きづらい問題であった。

【今後の対策】

- ① 総論対策は必須であることを再確認されたため、条文の確認や暗記は重要である。
- ② 過去問と違う角度からの問題にも対応できるよう、過去問はもちろんのこと、先例・テキスト・択一六法を中心に学習を繰り返す必要がある。
- ③ 平成16年改正の論点に関する出題が昨年同様出題されたため、引き続き当該論点の基礎知識が抜けないう、答練等で補うこと。
- ④ 信託は今後必須の論点となるため、基礎知識はきちんと把握する必要がある。
- ⑤ 書式でも出題できるような問題が多くあったため、択一知識と書式のひな型知識はリンクして学習を進めると効果的であろう。登記記録を読ませる問題にも対応が可能となる。